

令和元年度第3回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

- 1 日時 令和元年10月3日(木) 午前10時～午前11時45分
- 2 場所 青梅市役所 204会議室
- 3 出席委員
森田委員、加藤委員、小澤委員、茂原委員、徳武委員
- 4 議事
協議事項
 - (1) 子育て世代・事業者と市長との懇談会開催結果について
 - (2) SNSを活用した情報発信および市民意見等の聴取について
 - (3) 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる事業案について
 - (4) とんがり事業の優先分類について

(配布資料)

- 資料1―1 子育て世代と市長との懇談会開催結果
- 資料1―2 事業者と市長との懇談会開催結果
- 資料2 SNSを活用した情報発信および市民意見等の聴取について
- 資料3―1 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略継続事業案
- 資料3―2 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略新規事業案
- 資料4―1 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略全体像
- 資料4―2 とんがり事業優先分類の考え

・令和元年度第3回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録概要版(委員のみ)

発言者	会議のてん末・概要
会長	<p>(開会)</p> <p>令和元年度の第3回目の懇談会を開催させていただく。</p> <p>ラグビーワールドカップが盛り上がりを見せている。 アイルランド戦はネットたまぐーセンターでパブリックビューイングが開催され盛り上がったとのこと。 私も夢中になって応援した。 大会を通じて多くの声援、おもてなしをする日本のファンに対し、客席に向かって選手がお辞儀するなど、素晴らしい空間になっている。 多くの方を迎えたいと思っている青梅市としては、こういうところも参考になるかと思う。 副市長からの御挨拶にあったとおり、SNSに関することなどについて今回の議題が上がっている。 是非、皆様の視点から多くのご発言をいただきたい。 それでは次第の2、子育て世代・事業者と市長との懇談会開催結果について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>2 子育て世代・事業者と市長との懇談会開催結果について (子育て世代・事業者と市長との懇談会開催結果について、資料1-1、資料1-2を用いて説明)</p>
会長	<p>「子育て世代・事業者と市長との懇談会開催結果」について事務局から説明があった。御質問等あればお願いしたい。</p>
委員	<p>子育て支援センターが他にもあるといいという意見があるが、実際に足りないのか、広域なので行き届かない部分があるのか、考えられる要因は何か。</p>
子ども家庭部長	<p>はぐはぐの他に東青梅市民センターや、河辺市民センター、自治会館、ネットたまぐーセンター、保育所で子育て支援事業を行っている。</p> <p>不足しているということではなくて、他の施設でサービスを行っているということで理解してよいか。</p>
委員	<p>お見込みのとおり、他の施設で子育て支援策を行っている。</p>
子ども家庭部長	

委員	<p>子育て世代と市長との懇談会は、参加者はあまり多くないものの、とても切実な思いで来られている。発言を見ると難聴の方や、難病の方、授乳を色んなところでしたいとか、手話のことであるとか、本当に切実な気持ちを持たれていることを感じる。そういう方を救う施策を行っていただきたい。</p> <p>学童保育所の定員に関する発言についてだが、待機者がいるとのことで、これへ対応する施策を進めていただきたいと思う。</p>
委員	<p>子育て世代と市長との懇談会は非常にいいことだと思う。財政がひっ迫する中で、税収を増やすためには就労者を増やさないといけないし、そこに住む人を増やさないといけない。今も大事だがこれから生み育てる子どもを増やさないといけない。ぜひこれらの意見を生かしていただきたい。</p> <p>発達障害者支援法が成立したが、昔は発達障害とは聞かなかったが、今は切実な問題になっている。</p> <p>乳幼児健診の時だけでなく、親は心配なことがあれば医療機関に行くが、治療に待たされたり、結果の報告に待たされたり孤立を感じ不安になることがある。このようなことに対応するフォローやケアする場所は青梅市にあるのか。</p>
健康福祉部長	<p>発達障害等への対応だが、昨年 1 月に子育て世代包括支援センターを立ち上げ、妊娠から出産、子育てまでの相談をお受けしている。発達障害の相談も迅速かつ丁寧に対応するセンターを設置しているので、そういう方々のケアをしている。</p> <p>障害者も増えている傾向にあるので、障がい者福祉課と連携して対応していきたいと考えている。</p>
教育長	<p>保育園、幼稚園の頃にそういう心配がある場合は、就学支援シートというものを用意して、就学への支援をしている。教育相談所での相談を通じて、通常教室がいいのか、知的の固定がいいのか、情緒の固定がいいのか、あるいはもっと重度の関係で都立の特別支援学校がいいか、進学先について説明している。最終的には保護者の御意向にて決定している。</p>
委員	<p>多世代交流センターはとてもいいと思う。子育て支援センターと多世代交流センターはリンクするものなのか、違うものなのか、いかがか。</p>
事務局	<p>子育て支援センターは、子育てをするにあたって保護者が相談をしたり、子供たちの遊び場として位置付けているもの。多世代交流センターは、現行の総合戦略の中で、政策パッケージとして位置付けているもので、主に市内に点在している自治会館を開放し、そこに高齢者や子育て中の方、若者が集まり、地域</p>

委員	<p>のコミュニティを強化していこうという施策で、子育て世代と市長との懇談会の中でそういうものは進めてほしいとの意見を頂戴した。</p> <p>ハローワークでは、障がいをお持ちの方や難病の方の就労支援を行っている。</p> <p>そういう場合には周りの方の理解がどれだけあるかで、仕事を長く続けられるか重要になってくる。</p> <p>一緒に働く方に障害のことを理解していただくという取り組みを行っている。</p> <p>障害を持つ方と、一般の方が触れ合って、子供のころから理解を深めることが大事と思うが、市ではそのような取り組みや考えはあるか。</p> <p>懇談会の時に、取り組みについてお答えしていたかどうかについても併せて教えていただきたい。</p>
健康福祉部長	<p>手話の講習会を定期的に行っている。また手話ができる職員が何名かおり、支援を行っている。</p> <p>また、大門に障がい者サポートセンターを設置しており、就労も含めた様々な支援を行っている。</p>
企画部長	<p>懇談会の場では市長が一つ一つお答えする中で、必要に応じ担当からも回答をしている。</p>
会長	<p>子育て世代と市長との懇談会についてだが、こういう機会が定期的にあるのか。</p>
事務局	<p>子育て世代と市長との懇談会については昨年度から始めたもので、昨年度は1回開催した。今年度は7月と秋に実施して意見の聴取を行っていこうとするもの。</p> <p>子育て世代との懇談会については、まち・ひと・しごと創生総合戦略にとってはカギとなる世代なので、こういった取り組みは続けていきたい。</p>
会長	<p>参加者は決して多くないが、難病を持つお子様や障がい者の方など、いわゆる弱者と呼ばれている方々が自分から意見を発しづらいので、こういった機会を定期的につくっていただくことと、まち・ひと・しごと創生総合戦略としては継続的に子育て世代の支援をしていただくという方向にしたい。</p> <p>事業者との懇談会について御意見はどうか。</p>
委員	<p>しょうぶ祭りやつつじまつりなど、お祭りと呼ぶものはいっぱいある。どちらかというとここに出ているお祭りは青梅市の中の一つの地域であったりするわけだ</p>

<p>委員</p>	<p>が、羽村や福生にもあるものと思う。これらが連携するといいと思う。西多摩を考える会という今があって、西多摩というくくりで何をやったらよいかということを考えているが、活動のヒントになると思う。</p> <p>人口減少の中で企業との連携が必要との意見に川崎モデルというものがある。</p> <p>勉強してみたら、事業主の方が起業しようとしている方に、技術を教えるというような取り組みらしく、青梅の商工会議所でも積極的にやってると思う。自分の店に希望者を呼んでセミナーをしたりするなど、川崎モデルや東川町の取り組みとかは相当なインパクトがあるのでもっと拡大していけばよいと思う。商工会議所だけではなくて行政も力を入れていただきたい。</p> <p>先ほど出たSNSは効果的と思うので、このようなものも活用できれば広がるのでは。</p>
<p>会長</p>	<p>(SNSは)この後やりますので。</p> <p>市には広報があると思うが、広い意味で広報だが、市外や市民向けなどPR担当はいるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>情報発信については秘書広報課が担っており、広報の担当とシティセールスを担当する者がいる。広報係は広報おうめにより市内の方向けに情報発信するのが主だが、その他に公式ツイッターを開設してイベントや災害時の情報を発信している。</p>
<p>会長</p>	<p>行政なので情報は沢山入ってくると思う。こちらから乗り込んでいって、青梅市の良さを伝えて、遊びに来ていただくとか、移住されるとなおいいのかもしれないが、そういう良さがわからないから来ない。なのでこちらから出て行ってPRしたらどうか。</p> <p>企業誘致といってもそう簡単ではない。事業を立ち上げる支援もやっているが、大きく育つまでには時間もかかるし、青梅市の活性化につなげるには違う方法も考えなければと思う。</p> <p>秩父では、まずは来てもらって、泊まれる施設を開放したり、ガイドがついて案内して秩父の良さを知ってもらったり、やはり住んでもらわないとわからないことがあるので、2泊でも3泊でもしてもらい良さを知ってもらおうということをやっていた。これに限らないが色々な方法で青梅市の良さを発信していくということなんだと思う。</p> <p>青梅市は岩盤があり災害にも強いが、あまり知られていない。</p> <p>東日本大震災の時も、青梅市では他に比べてしっかりしていたと思う。</p>

委員	<p>会長から地盤はしっかりしているとお聞きした。この辺に立川断層というのがあ るがそれは青梅の下にあるのか、またどのような影響があるか。</p>
事務局	<p>青梅市の東部、瑞穂から今井にかけて一部断層はある。</p>
委員	<p>立川断層があっても、大丈夫ならば、それを強みとして発信することもいいの では。</p>
委員	<p>企業との連携ということで、今の企業はどのように地域に貢献できるかすごく求 められている時代。CSRとか意義のあることを行うところを誘致することによって 社会的に貢献する青梅というイメージが出るのでは。</p> <p>もうひとつ、埼玉にはムーミンがあり、青梅に近い。広域的な結びつきを考えたら どうか。3泊したときにこことここにというようなコースが作れたらよいのではない か。</p>
委員	<p>事業所が8事業所ということだが、木材や山林の話が出ている。市として林業 について、木材などを生かしてというようことはいかがか。</p> <p>青梅の山を下りるとすぐ飯能ということもあって、森林を通じてつながりをもつと いうことがあってもいい。</p>
会長	<p>起業する人が青梅を選ぶというときに、何か特典があると青梅を選びやすい。 新たに起業されるときには青梅ならこういう特典があるから、どんどん青梅に来て くださいというようなことがあれば。</p> <p>またはCSRのような志があり、事業展開されるような方は注目される。隣近所 の自治体との連携はどうなっているか。</p>
事務局	<p>都内であれば、西多摩地域の8市町村で広域行政圏協議会を組織して図書 館の共同利用などの事業に取り組んだり、今後公共施設の再編がどの自治体 でも課題になっているので、様々な施設の広域連携を研究している。県境で は、飯能市、入間市および瑞穂町と青梅市で圏央道の開通をきっかけに、情報 交換や意見交換を行っている。また、飯能市、入間市とは図書館の広域利用も 実施している。</p> <p>獣害も西多摩や埼玉県境にて共通の課題になっており、イノシシの駆除につ いて協定を結んで広域的な連携を図っている。</p>
市民安全部長	<p>他県との協定ということでは、飯能市や入間市と防災に関する協定も結んでい る。</p>

会長	<p>行政間では結構な連携ができているということですが、市民がそれを知っているのかということはある。活用できるような状況にはなっているということ。</p>
事務局	<p>3 SNSを活用した情報発信および市民意見等の聴取について (SNSを活用した情報発信および市民意見等の聴取について、資料2を用いて説明)</p>
会長	<p>まずはどのような記事を発信して意見収集につなげたらよいかという視点で意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>我々の世代ですと、SNSは皆さんに広くお伝えするためのものとして認識してしまっているが、今の社会的な様子を見ると、一つのテーマに言いたい人が集まって色んなことを言って、そこが社会的な議論の場になっていたり、社会の流れを映す鏡のようになっていたりするんですけれども、そうするとまるで生き物のように勝手に増殖して、青梅市の手を離れてくような気もするが、いかに多くの人に読んでいただくか、興味を持っていただくかということを考えると、そういう方向がこれからのありかたかと思う。</p>
委員	<p>使い方によっては、変な書き込みであったり、誤報が拡散してしまうというのが怖いところではある。書き込みや感想がおかしくならないよう注意する必要がある。ソーシャルメディアの活用を先進的に行っている事例報告があった。参加している事業主が170名くらいいて、すでに取り入れているという方が63%で、これから入れたいという方を含めると98%の事業主が早くやりたいという意見がある。自治体も同じ事が言えるかと思うので、早期に取り組み、導入後は途中で評価しながら、慎重になおかつ、先進的にやっていければよいのではないかな。</p>
会長	<p>好き勝手にというか、裏も取らずどんどん書き込みがされてしまうと方向性が違ってしまいうことがあるかもしれないが、さっきの子育て世代との懇談会の時もそうだったが、来られない方が圧倒的に多いし、若い方も学校であったり仕事であったりということ呼びかけても来られない方はいるので、SNSで場を提供するのはいいこと。</p>
委員	<p>やはりバランスの問題。すべてを受け止める必要はないが、アンテナとして張っておくものとしては非常に良いツール。匿名性が高いものなので、相手がどうい風言っているかについて、その都度動揺してはいけない。市としてどのようなスタンスで対応するかを決めて、対応していただければと思う。</p> <p>私たちはまだEメールの世代なので、市に届くメールアドレスもあればいいと思う。</p>

委員	<p>男女平等の会議の中で、広報誌にて男女平等の啓発をしているが、広報誌には住所しか書いていなかったのので、メールアドレスも記載したらどうかという意見が出された。いくつかのチャンネルを持っているということが大事。</p> <p>ある程度絞り込んだ情報に対する意見を募った方がよいのでは。ある一つのことに対する意見を求めて、こうした方がいいとかいう意見が出されてくれば良いかと思う。</p> <p>色々な意見を言える仕組みがあることが大事なので、周知をしっかりといただいて、SNSを使えない方もいるので、そういう方はどういう方法があるのかも周知してもらいたい。</p>
委員	<p>ひょっとすると、青梅市から独立した機関がやった方がいいかもしれない。</p> <p>市が行うと、ホームページの延長になってしまって、チャンネルは違うけどホームページと同じだなという風になってしまう。</p> <p>もっと自由で全員参加型を望むなら市から離れた独立した組織で客観的な立場でやってもらうといいかと思う。</p>
会長	<p>SNSを活用することに対しては各委員賛同いただいているようなので、御了解いただいたものとさせていただきます。</p>
事務局	<p>4 次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる事業案について (次期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる事業案について、資料3-1および3-2を用いて説明)</p>
会長	<p>今後ブラッシュアップするものや、継続しないものもあるが、各事業に対してこうした方がいいというような意見をいただければと思う。</p> <p>現行の総合戦略の事業は、今年まで4年間かけて行われている。すべてのものが、4年で結論が出るわけではないので、中身は吟味してもらおうとして、基本的には時間をかけてやらなければならない事業。結果が全てではなくて、やったことによって市民が喜んだり助かったとかいうものをやめてしまうわけにはいかない。長い目で見てもらいたい。</p>
委員	<p>本当にこういうものは時間がかかる。継続して少しずつ効果がでるもの。</p> <p>健康課でプレママクラスというのを以前からやっていて、途中から土曜日にも開催して、お父さんも参加できるプレパパクラスというのを始めてくれた。これを続けていたら去年のお父さんの参加人数が過去最高になった。土曜日の開催は、行う方も大変だが、お父さんが参加できる事業を継続していくことで、子育てにやさしいということが浸透していくのではないかな。</p>

<p>委員</p>	<p>やはり継続は大事なので、こういう事業は続けてもらいたい。</p> <p>労働団体でも女性セミナーなどを定期的に行っているが、女性の参加が多い。やはり家庭との両立ということでも男性の理解がないと進まない。極力男性と女性が半々になるように募集している。</p> <p>何かやるのであれば、女性も男性も同じ人数が参加するように配慮してほしい。</p> <p>あと6ページのところで空き家活用を地域コミュニティ事業にというところで、文章が止まっているように見えるが、市では何もやらないように見えるがどうか。</p> <p>空き家対策でいえば奥多摩町では、空き家を利用した方には土地も家も無償で提供する。定住してもらって非常に喜ばれている。</p> <p>うちの会社の者もいたが、それは青梅市に住んでいた方でわざわざ青梅から奥多摩へ行って空き家を使うのかと思った。青梅市内でも空き家があればいくらでも利用者がいるのではないかと。それで空き家対策を青梅市がどうしているのかお聞きしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>空き家活用を地域コミュニティにという事業は、青梅市でも空き家が多くなっているということで、補助を出して空き家を活用しようとか、地域の方が集まってコミュニティを強化しようとかということに対して補助を出している内容となっている。</p> <p>資料は途中で切れてしまっているが、このような内容の事業となっている。</p> <p>資料が不完全で申し訳ない。</p>
<p>委員</p>	<p>文章の続きがあれば、記述をお願いしたい。内容は承知した。</p>
<p>事務局</p>	<p>空き家活用という部分では、空き家バンク事業というものがある。市としては経費的な支援ということではないが、空き家を貸したい人と、空き家を利用したい人を全域的に取り持つということを行っている。</p>
<p>委員</p>	<p>青梅市への移住に関することとか、空き家がないかとか、相談窓口はあるか。</p> <p>何か相談があれば青梅市役所の窓口になるのか、都内に窓口を用意しているとかはいかがか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市独自という取り組みではないが、西多摩8市町村で構成している広域行政圏協議会の連携事業として平成28年度から移住定住促進事業に取り組んでいる。具体的にはNPO法人ふるさと回帰支援センターが主催して、毎年ふるさと回帰フェアというものを全国規模で行っている。そこへ出向いてブースを作って、全国から訪れたお客様が相談に来られるので、こちらから情報提供を行っている。</p>

会長	市のホームページにも空き家バンク事業のことは載っているか。
事務局	市のホームページにも物件があり、借り手や買い手を募集している。
会長	興味のある人はホームページを見ると思うので、目立つところにあるといいのでは。
委員	<p>奥多摩町では定住相談会というのをやっていて、まずは遊びに来てくださいという感じでやっている。</p> <p>実際に住んでもらいたい家を見てもらったり、子供を連れてきて遊んでもらったりしている。</p> <p>青梅市も良い物件があれば、やってみてもよいのではないか。</p> <p>あと話がずれるかもしれないが、森林整備事業というのがあるが、これは地元の企業に委託をしたり、興味がある人がいたら市の仕事としてやれるということか。</p>
事務局	市内の事業者や、東京都森林組合の方に長期的なスパンで間伐や枝打ちをお願いし、花粉対策の一環として実施している。
委員	そういうことに興味のある方は、市の事業として下請けとして入れたりするの か。
事務局	基本的には一定の条件のもと、指名参加の上、契約をした事業者をお願いしている。市民の手によるという趣旨の取り組みでは、森林ボランティアの育成というのを行っている。2年1期で青梅の山林を使つての講習を展開している。
委員	定住する人も仕事があれば定住しやすくなる。そういう継続した仕事が保証されれば定住に結び付くと思ってお聞きした。森林組合の中で求人があれば移住とセットでということもあるのでは。
事務局	補足だが、事業は都から多摩森林再生事業として年間7千万円の補助を受けて行っている事業となっている。
委員	周産期等医療環境の充実というところで、医療の充実となっている。たまたまこの項目は、「子どもを生み・育て、将来にわたり暮らし続けたいまちを実現」というところなので、周産期という出産に関わることを挙げていると思う。ただし市の病院であるので建て替えには相当の費用がかかると思う。病院は将来的にお世

	<p>話になるところなので機能充実には期待するところだが、個人でやっているお医者さんに行くとMRIなどの設備がないので総合病院に行こうとすると、予約にとても時間がかかる。先日も人間ドックが総合病院では予約しても待たされるということで、市外の病院へ行った。身近な健康管理のための検査の場も市外へ出てしまう。こういうところも総合病院に期待する。医療機器や先進医療にお金がかかると思うが、サービス向上に結び付くので、他の項目にも記載したらどうか。</p>
事務局	<p>記載方法には工夫をしていきたい。</p>
会長	<p>事務局からも聞いているが、新規事業で旧吉野家の活用とあるが、そこだけに来る人はあまりいない。それは価値のあるものだが、観光マップのようなルート付きで発信すると青梅にでも行ってみようかという感じになるのでは。単品ではなくセットでみせたらどうか。</p>
事務局	<p>ピンポイントで旧吉野家というところもあるが、文化財保護法の改正の中で、文化財の保存から活用という方向へ動き出している。</p> <p>東部地域には観光農園などもあるので、そういうところも加味して事業としてブラッシュアップしていきたい。</p>
事務局	<p>5 とんがり事業の優先分類について (とんがり事業の優先分類について、資料4-1および4-2を用いて説明)</p>
会長	<p>前回の会議で見させていただいたが、制約がない中で多くの職員が意見を出され、斬新なというか、こういう会議では今まで出てこなかったような意見がある。</p> <p>できそうであれば道筋をつけることや、良いものをぜひ取り上げてほしい。</p>
委員	<p>とんがり事業は楽しく見させていただいた。あれはそのまま実行すると難しいというものはいっぱいあると思うが、あれがヒントとなってちょっと違うけどこうすればできるのではないかというように、方向性をあの中からくみ取るということができるのではと感じた。</p>
委員	<p>いくつも意見がある中から方向性を見極めるということは重要。</p> <p>アイデアの中に国連のSDGsの目標に向かって施策を作っていっていったらどうかというものがあつた。こういう全部をくくる理念があつて、施策を選定していくのもありかなと思う。</p>
委員	<p>前回の懇談会でとんがり事業はどういうものかをお聞きしたときに、若い人の考え、先進的な考えを考慮したとお聞きしたので、非常にいい発案だと思う。こう</p>

事務局	<p>いう事業を進めていく中で、継続的に若い人の意見を入れるために、委員に若い人を入れていただき、若い人たちが携わり続けられるようにしてもらいたい。</p> <p>優先順位を決めるときに、若い人を排除してはあまり意味がないかと思う。</p> <p>今回は触れていないが、庁内の係長になっていない若い職員を集めて、とんがり事業についてもブラッシュアップできるようにしている。</p> <p>策定後についてのご意見もあったので参考にさせていただく。</p>
会長	<p>本日の協議事項は、以上とさせていただく。</p> <p>本日発言のあった点については、次期戦略の策定に向け、事務局にて対応をお願いします。</p> <p>最後にその他について何かあればお願いしたい。</p> <p>次回の懇談会は、11月5日を予定している。</p> <p>委員の皆様には、御出席をお願いしたい。</p> <p>本日の会議録について、用意でき次第、委員の皆様にお送りするので、内容の御確認をお願いしたい。</p> <p>以上で本日の議事はすべて終了した。</p> <p>以上をもって、令和元年度第3回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会を終了とする。</p> <p>(閉会)</p>